

平成30年度第1回千葉市文化財保護審議会議事録

1 日 時 平成31年3月11日（月） 午前10時～12時

2 場 所 千葉ポートサイドタワー12階 第一会議室

3 出席者 （委員）

山田俊輔会長、河東義之副会長、井口雅代委員、
神谷睦代委員、小関悠一郎委員、吉村稔子委員

（事務局）

潮見生涯学習部長、稲葉文化財課長、

児玉文化財課長補佐、その他事務局職員

4 議 事

（1）文化財保存活用地域計画に関する今後の取り組みについて

（2）市地域文化財（建造物）千葉市ゆかりの家・いなげの電気設備改修工事について

5 議事の概要

（1）文化財保存活用地域計画に関する今後の取り組みについて説明し、現在取り組んでいる特別史跡加曽利貝塚の発掘調査や整備を始めとした文化財関係事業に注力しながら、今後千葉県が策定予定の大綱の内容や他市町村の事例を勘案したうえで、メリットや必要性等を見極めていく方向で問題ないとの意見を得た。

（2）市地域文化財（建造物）千葉市ゆかりの家・いなげの電気設備改修工事について説明し、実施設計にあたっては、天井意匠（格天井）の保存や、建物の内装と新設照明のデザインのバランスに配慮するなど、本審議会の建造物の専門委員である河東委員に指導いただきながら進めていく形で問題ないとの意見を得た。

6 報告事項

（1）国指定記念物（特別史跡）加曽利貝塚のグランドデザインについて

（2）市指定文化財（建造物）旧生浜町役場庁舎の外壁塗装修繕について

（3）国登録文化財（建造物）千葉市民ギャラリー・いなげ（旧神谷伝兵衛稲毛別荘）耐震補強等工事の進捗状況について

（4）市指定文化財（建造物）旧川崎銀行千葉支店本館（さや堂ホール）の修復工事について

7 会議経過

(山田会長) 議事に入る前に、議事録署名人として神谷委員を指名する。

【神谷委員承諾】

議事(1) 文化財保存活用地域計画に関する今後の取り組みについて

(山田会長) 議事の(1)について事務局より説明を願う。

【事務局が文化財保存活用地域計画に関する今後の取り組みについて説明】

(山田会長) 文化財保存活用地域計画に関する今後の取り組みについて、何か質問・意見等はあるか。

① 他市町村や文化庁の状況について

(河東委員) 本件については、千葉市に限らず、他の市町村も慎重な姿勢である。都道府県からまだ何も示されていない状況のため、当然であろう。文化庁も組織改正や京都への移転があり少々混乱している状況にある。

② 地域計画策定のメリットについて

(河東委員) 新たな文化庁補助金に関しては、主に美術工芸品を想定しており、建造物が対象ではないように感じる。建造物に関して言えば、今まで行っていた現状変更等の県への届出を省略し、直接文化庁へ提出できるという点が挙げられる。
また、市が自立した文化財の保護ができるという点では、悪くない話である。

③ 地域計画策定にあたっての今後の取り組みについて

(河東委員) 地域計画の策定を実現するためには、そのための職員を増やさなければならない。それなしにやろうとすると、現体制では無理がある。市として文化財を大切にするのであれば、(文化財部門を)市長部局に移してもよいし、計画を立ててもよいが、専門職員を増やす必要がある。市の現状を考えると、様子を見るのは悪いことではない。

(山田会長) 私も慎重な意見に賛成である。最近では、観光とセットで議論がなされていて、奈良県のように知事の下に観光の部署を作っているところもあるが、財源には限りがある。守るべき文化財のケアができるのか、他のよい事例を見ながら、リスク回避をするのも大切であろう。加曽利貝塚の整備に注力し、既にある文化財の保存活用など千葉市としてやるべきことを

やっていくという方向でよいのではと思う。河東委員も言ったが、実際に地域計画策定に取り組むにはマンパワーが必要である。台所事情を考慮しながら何ができるのか検討しないと、現行の事業が破たんしてしまう。

（小関委員）私も山田委員と同じ意見である。文化財行政そのものが、かなり活用に重きを置く傾向にあるが、それはそれとして、保護にしっかりと取り組むのが重要である。大急ぎで取り組むよりは、必要性を見極めた方がよいだろう。

（神谷委員）先生方（他の委員）の話聞いて、加曽利貝塚を整備しながら、慎重に次の展開を見ていくことに私も賛成である。

④ 地域計画を策定する場合の注意点

（河東委員）今、（文化財行政における）「活用」と「観光」について、はっきり文化庁も定義できていない。公開するだけが「活用」ではない。何をすれば「活用」で、どこからが「観光」なのか、問題を明確にしないと、人を増やせば成果が出るというものでもないだろう。国も一概に定義するのは難しいと思われるので、計画を策定するのであれば、市側で定義を決め、取り組む必要がある。

（稲葉課長）千葉県が大綱を作る予定のため、その状況を見ながら、市内にある把握しきれていない文化財も含めて慎重に検討していきたい。

⑤ 未指定文化財について

（小関委員）資料（１－１の（２））にも未指定文化財についての記載があるが、具体的に何か考えがあるのか。

（稲葉課長）未指定についても、市で説明板を設置しているものがある。また、地域の方々が保存や活用に取り組んでくれているものもあるので、その様な団体等からも情報提供をいただきながら進めていきたい。

（河東委員）建造物に関しては、県が過去に報告書を出している。未指定の中でもどれが重要かなども載っているなので、参考にしていただければと思う。

（事務局）承知した。

(山田会長) 質問・意見は以上のようなので、事務局においては、今出た意見を参考に今後の事務を進めていただきたい。

議事(2) 市地域文化財(建造物) 千葉市ゆかりの家・いなげの電気設備改修工事について

(山田会長) 議事の(2)について事務局より説明を願う。

【事務局が千葉市ゆかりの家・いなげの電気設備改修工事について説明】

(山田会長) 千葉市ゆかりの家・いなげの電気設備改修工事について、何か質問・意見等はあるか。

①資料の表記について

(河東委員) 資料(2(5) 建造物の特徴)に「全体として改造が少なく」とあるが、浩夫人は皇族の血筋の方なので、この家に住むにあたっては、宮内庁や陸軍によってかなり改装が加えられた可能性が高い。民間人の別荘をそのまま使うということはないだろう。照明や漆塗りの意匠からもそれが伺える。この表現のままでは、少し誤解が生じられると思われる。

(事務局) 承知した。

②照明の照度について

(小関委員) 改修後の照度はどれくらいを想定しているのか。

(事務局) 今と同程度を想定している。

(稲葉課長) LEDになるので、一定の明るさは担保されると思われる。

(河東委員) 建物の雰囲気もあるので、あまり明るすぎない仕様の方がよいだろう。資料が展示されている箇所だけスポットを当てるなど工夫してほしい。

③電気設備の工事内容について

(吉村委員) 過去に電気設備の改修はしているのか。

(河東委員) していないようだ。

(事務局) 分電盤は設置から33年が経過している。電気配線については、設置時期が不明で、どちらもそのままにするのは危険な状況である。

(河東委員) 電気配線は残すのか。

(事務局) 残すのは、照明器具のみである。

(稲葉課長) 分電盤と電気配線については、古いものを撤去し、新しい

ものを設置する。

（河東委員）文化財的な価値を有する可能性があるので、撤去した電気配線は保管しておいてほしい。

④ 新設照明器具のデザインについて

（神谷委員）新設照明器具のイメージ写真２はかなり現代風のデザインに見えるが、できるだけ当時の意匠に合わせた方がよいのではないか。

（河東委員）そこが文化財の難しいところである。修理で新しく付け加えたものは、分かるようにしないとイケない。だが、その部分だけ浮いてしまってもダメなので、バランスが難しい。

（山田会長）質問・意見は以上のようなので、事務局においては、河東委員に適宜意見をいただきながら、今後の事務を進めていただきたい。

報告事項（１）国指定記念物（特別史跡）加曽利貝塚のグランドデザインについて

（山田会長）報告事項（１）について、事務局より説明を願う。

【事務局職員が加曽利貝塚のグランドデザインについて報告】

① 市民意見の吸い上げについて

（山田会長）資料３－１の２項目に、「市民や企業・団体等との連携」してとあるが、市民団体やそこを活用する人たちへのアンケートは実施しているのか。

（事務局）グランドデザインの策定にあたって、アンケートやワークショップ、地元との意見交換会を実施した。

（山田会長）せっかく整備を行っても、閑散としている事例もあるので、そのようにしていただけると安心である。

② 整備にあたっての懸案事項について

（河東委員）私もそれが心配である。どうしても史跡は地味なので、どういう質・世代の人をターゲットにするのか、年間１５万人が集客目標とあるが、常時レストランが開けるほど人が呼べるのか等、十分に検討する必要がある。絵は描けても計画通りにいったところは見ることがない。マーケティングのプロに意見をもらうなどしないと先行きが心配である。

（潮見部長）かなりの投資を行うことから、市長も加曽利単体ではなく、

範囲広く、グリーンツーリズムや観光部門と連携して、パークマネジメントをうまくやっていけば、足を運んでいただくと考えている。

（山田会長）県の中央博物館は年間１８万人と聞いた。県南の博物館では１万人がベースであることを考えると、１５万人集めるのは大変なことである。加曽利の場合は複合的な要素があるとはいえ、費用対効果や経営的なところを考慮する必要がある。所謂「みちのえき」のような千葉の物産の販売を行うなど、足を運ぶきっかけを複数用意しておかないと人は来ないだろう。

（潮見部長）今年は、加曽利貝塚博物館の来館者が８万人弱で、久しぶりに最高記録を更新した。市内の小学校はすべて来てくれている。今年の２倍と考えると、私としては、１５万人は控えめな目標と考えている。

③ 集客数の増加に伴う課題について

（河東委員）史跡を保存しながら人を集めようとする、本来主役であるはずの史跡に悪さをするような人も出てくる可能性がある。観光地として有名になった町並み保存の事例などでは、駐車場不足やゴミ問題、近隣住居への浸入などが発生している。人数のことだけを考えすぎないようにした方がよい。

④ 集客ターゲットについて

（井口委員）大がかりなことに驚いている。昨年、東京国立博物館で開催された縄文展が満員で大人気になったが、今の世の中はコマーシャルでどうにでもなるので、読めない部分がある。私の中では加曽利は小学生向けというイメージが強い。

（神谷委員）展示を含め博物館を教育施設として幼・小・中の義務教育の中で定着させることに加え、県外のパスで来られるようなところへのＰＲをしていくのがよいのではないかと思う。また、自然破壊につながる恐れがあるので難しいかもしれないが、ファミリー向けに簡単なキャンプやバーベキューができる施設を併設してもよいだろう。

（吉村委員）グランドデザインのイメージパースの中にバーベキューをしているような絵があるようだ。私としては、高齢化社会に向けて、バリアフリーにも配慮いただけたらと思う。

(事務局) 承知した。

報告事項(2) 市指定文化財(建造物) 旧生浜町役場庁舎の外壁塗装修繕について

(山田会長) 報告事項(2) について、事務局より説明を願う。

【事務局職員が旧生浜町役場庁舎の外壁塗装修繕について報告】

(河東委員) ペンキの塗装は長くても20年くらいしか持たない。マンションでも10年程で外壁を改修することから、20年毎の修繕というのは文化財としては当たり前と考えていただきたい。

(事務局) 承知した。

報告事項(3) 国登録文化財(建造物) 千葉市民ギャラリー・いなげ(旧神谷伝兵衛稲毛別荘) 耐震補強等工事の進捗状況について

(山田会長) 報告事項(3) について、事務局より説明を願う。

【事務局職員が千葉市民ギャラリー・いなげ耐震補強等工事の進捗状況について報告】

(河東委員) 国登録文化財には、補助金が全然出ない。保存活用計画を策定すれば例外的に認められている状況である。私もこの建物の保存活用計画の策定に関わったが、かなり費用が掛かる工事のため、国庫補助金がないとなかなか難しい。ゆかりの家・いなげと併せて利用できると望ましい。

(事務局) 承知した。

報告事項(4) 市指定文化財(建造物) 旧川崎銀行千葉支店本館(さや堂ホール)の修復工事について

(山田会長) 報告事項(4) について、事務局より説明を願う。

【事務局職員が旧川崎銀行千葉支店本館の修復工事について報告】

(河東委員) 去年、文化振興課からさや堂を美術館の入り口にするにあたり、風除室があると狭いので取ってもよいか相談を受けたが、当時の銀行にはあるべきものであり、文化財としては残すべきと回答した。その後特に報告は受けていないが、何かあれば声をかけていただければと思う。あれだけのものを残すのは難しい。昭和初期の本格的な銀行建築は、東京の明治

安田生命館など、全国でも数えるほどしかない。

(神谷委員) 資料 6-2 に、「さや堂ホールカフェ」とあるが、さや堂とカフェは一緒か。

(事務局) 別々である。さや堂の外の廊下の先にカフェスペースを作るという意味合いである。

(神谷委員) そういうことであれば安心した。現在開催されている「市展」で、さや堂の 1 階ホールに彫刻作品が展示されている。そういったヨーロッパの美術館のように展示できる場所は日本では他になく、大変貴重な展示空間である。

(河東委員) 特に彫刻を展示するのであれば、2 階ギャラリーの回廊に上がれるようにすると、作品を上から見下ろすことができ、理想的である。

(山田会長) これにて議事を終了する。

問い合わせ先 千葉市教育委員会生涯学習部文化財課

T E L 0 4 3 - 2 4 5 - 5 9 6 2

F A X 0 4 3 - 2 4 5 - 5 9 9 3